

科目区分：造形芸術コース

授業科目名：芸術概論

美術館見学実習を活用した美術鑑賞入門

美術教育専修 上原真依

I. 授業の概要

「芸術概論」は、芸術文化課程の1年生を主な対象とした課程共通必修科目である。本年は、造形芸術コース10名（1年生）および音楽文化コース12名（1年生11名、4年生1名）、学校教育教員養成課程2名（1年生）の計24名が受講した。

1) 授業目的

芸術作品を注意深く観察して、他の作品と比較したり、また歴史や背景を探ったりすることで、作品の面白さを読み解く。

2) 到達目標

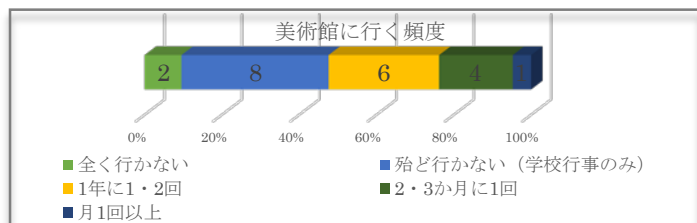
- ・作品をただ眺めるのではなく、作品から芸術家の関心や工夫、当時の社会的背景まで探れる力を養う。
- ・作品を正確に記述し、人に伝えられる表現方法を身につける。

3) 関連するディプロマ・ポリシー

- ・生涯学習社会を築くため、芸術文化全般にわたる確かな知識と、得意とする分野における専門的知識を修得している。(知識・理解)
- ・芸術分野におけるさまざまな問題について考察し、幅広い視野で適切な対応を考えることができる。(思考・判断)

4) 今年度、特に意識して取り組んだこと

美術作品を正しく理解するには、まず美術館などで本物を実際に見ることが重要である。しかし第1回オリエンテーション時のアンケートでは、出席者21名のうち7割が、「殆ど行かない（学校行事のみ）」「年に1、2回」と回答した。（下記参照）



美術館などで作品を実見することは、作品の面白さに気づき、作品を積極的に読み取る姿勢を育む基本である。実物を見て作品について考え調べる習慣を獲得すれば、授業時間外のみならず生涯にわたり美術作品を学習し続けられる

ことは言うまでもない。そこで本授業では、実物を見ることへの関心を高めることを特に意識し①美術館での見学実習を主軸に、②見学先の所蔵作品やコレクションについて解説し、作品鑑賞への関心を高めるとともに、③実物を見た時のメモの取り方、④作品を見るポイントや読み解き方を取り上げた。

5) 授業方法、形態、内容の概要

本授業は先述した取り組みを踏まえ、①作品実見のためのディスクリプションの解説と実践（第1～2回）②大原美術館コレクションおよび主要作品である印象派の解説（第3～5回）③倉敷市大原美術館での見学実習（第6～7回）④美術作品の読み解き方の解説と実践を行った。第15回には記述式のテストとまとめを行い、毎回の授業での小レポート、見学実習ワークシートも合わせて総合的に評価を行った。

①ディスクリプションの解説と実践

見学実習では、見た作品から1点取り上げて作品鑑賞レポートを作成することを課題としたため、美術品を言語化する手法（ディスクリプション）について解説し、ペア・ワークでその実践を行った。具体的には、1人が作品を隠した状態で言葉でのみ説明し、もう一人がその説明から想像図を起こし説明者に渡した。説明者がペアの想像図から自分のディスクリプションに足りない箇所を検討・補足することで、作品を言葉で伝える際の客観性を獲得するようにした。

①ルネサンス期作品を対象とした作品の読解

マザッチョ、レオナルド・ダ・ヴィンチなど代表的な画家の作品から、毎回1～2点を取り上げ観察・比較した。細部まで鋭く分析して発現させることで、表現の違いから作者の手を判断したり、作者の意図や工夫を読み取る練習を行った。

②大原美術館コレクション・印象派の解説

所蔵作品の中から、特にエル・グレコおよび印象派の作品を取り上げ、制作背景を明らかにしつつその魅力や画法について解説した。特に印象派については、制作当時の革新性を取り上げ、特色を明らかにしながらモネ、ルノワール、ドガの作

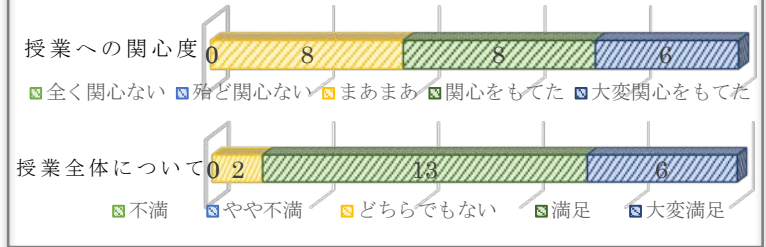
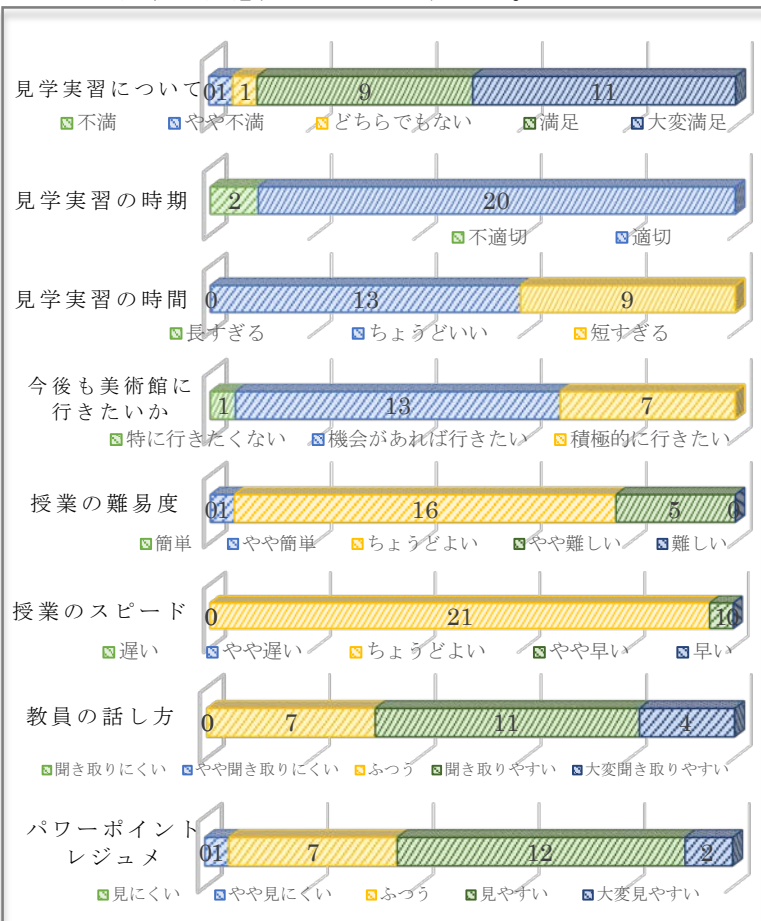
品を紹介した。さらに西洋美術作品を扱う、日本で最初の美術館である大原美術館が、どのように作品を収集したかを説明し美術館見学に対する関心を高められるようにした。

③倉敷市大原美術館での見学実習

第1回にアンケートを行い、受講生の都合を聞いたうえで、12月13日(日)に実施した。見学先選出理由としては、印象派の作品が多く日本の近現代作品もそろっていること、学芸員に解説をしていただけること、美観地区を散策しつつ各自で見学も可能なことが挙げられる。見学当日のスケジュールは次の通り。8:30 愛媛大学正門集合→(大型バス貸切)→11:00 倉敷着、11:00~12:00 大原美術館学芸員に解説、12:00~16:00 大原美術館内自由見学&各自昼食、再集合→(大型バス貸切)→18:30 愛媛大学正門。費用は一人5500円(往復交通費と入館料。担当教員は21000円)。規制強化の影響でバス代が高騰しているが(3年前の約2倍)、学生負担は5500円が限度と考え、不足分は担当教員負担とした。

II. アンケート結果

アンケートは独自の質問項目で第15回授業終了後に無記名式で実施した。質問は選択式10項目と、自由記述式3項目で、22名が回答。集計結果は下の通り。なお紙面の都合上、自由記述回答の同意見はまとめて記した。



[改善してほしい点] (自由記述)

- ・本物を観る機会がもっと欲しい
- ・楽友会コンサートの時期の見学はつらかった

[見学実習に関して] (自由記述)

- ・時間が短く時間が足りなかった(7名)
- ・美術館外の美観地区を含め自由に回れてよかった(4名)
- ・安く行けてよかった(1名)
- ・楽しかった(6名)
- ・美術館にあまり行っていないのでよい経験になった(4名)
- ・本物を見られてよかった(3名)
- ・絵以外の作品も多くてよかった(3名)
- ・作品数が多すぎて混乱した(1名)

[授業全体に関して] (自由記述)

- ・見学実習を増やしてほしい(2名)
- ・西洋絵画に関心を持てました
- ・話が面白く関心を持ちやすかった
- ・ディスクリプションを使ったゲームが楽しかった

III. 総括

1) アンケート結果を踏まえた、次年度への改善点

昨年度の反省を踏まえ見学時間を検討し、ちょうど児島虎次郎館が閉館中だったことを受けて30分短縮した4時間の見学時間(昼食込)を設定した。しかし時間が足りなさすぎるという声も、思いのほか多かった。開館場所の数よりも、一点一点しっかりと作品を見ているということなので、今後は時間の延長を考えた。パワーポイントの見やすさに関しては、レジュメとの繋がりが分かりにくいという声もあったため、今後改善を心がけたい。

2) 授業の目的、到達目標、関連DPを踏まえた総括

アンケートおよび見学実習に関する取り組み方から、授業の目的や関連DPの(知識・理解)(思考・判断)はほぼ達成できていると考える。特に実物を見て思考する楽しさに気づき、美術作品への関心を高められた学生は多かった。多くの学生が今後も美術館に行きたいとアンケートで回答しており、授業時間外にも作品を実際に見る機会を自ら設定できるベースを作ることができたと言えるだろう。また昨年度より導入した見学実習用のワークシートは作品をじっくり見る機会となっているようである。今後は学生の関心をより高められるようなワークシートとなるよう改良を加え、見学実習をより有意義な機会にしていきたい。